

佛書解說大辭典

大東出版社藏版



昭和10年4月10日 初版発行
昭和40年8月15日 改訂発行
昭和55年5月20日 重版発行

仏書解説大辞典 第九卷
¥ 7000

版權
所有

編纂者 小 野 玄 妙
発行者 岩 野 真 雄
印刷者 村 雲 二 郎

発行所 株式会社 大東出版社

東京都文京区白山1丁目37番10号
電話 (816) 7607

印刷所 株式会社 平 文 社

3515-050009-4384

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小冊子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に内容解説を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。即ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮内省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より偽經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採録した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。即ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其内容解説にあつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解説をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解説するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類即ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出来る丈内容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、①題名、書名、具名略名異名併記。②卷數。③存、缺。④著者又は譯者、生存年代を併記。⑤著作年代又は譯出年代。⑥内容解説。⑦末書（注釋書參考書）。⑧寫刊の年月。⑨現所藏者、圖書館書庫名。⑩發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は⑧⑨を省略し、第三類は特に⑨の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は⑩の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は⑦の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が⑥に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

- ①、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に従つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異なる點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に従つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に従ふことにした。
- ②、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の異なる場合あるものは一々これを附記した。
- ③、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卅——卅字藏經。卅續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。乙——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥棕撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

①、著者又は譯者は其人の生存年代を出来る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に讓るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中——線を用ひ、「年代——年代」なるは生死年を、「年代——」は生年、「——年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「——年代——」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「？」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

⑤、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

⑥、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典翻譯に關する歴史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所にて説明した。例へば次の部「俱舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨俱舍論」と記し、詳細なる解説はアの部「阿毗達磨俱舍論」に於てなしたるが如し。

⑦、注釋書參考書は典據を出来る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に従つて列舉した。

⑧、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

⑨、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

八

巴掌語錄

①(日) Ha-shō-go-toku. ②十二冊 ③存 ④(參考) 禪籍目錄

布哇開教史

①(日) Ha-wai-kai-kyō-shi. ②一卷 ③存 ④今村惠猛(一昭和八・A.D.1933)著 ⑤大正七刊 ⑥(龍大)二九一・二四

布哇開教誌要

①(日) Ha-wai-kai-kyō-shi-yō. ②一卷 ③存 ④今村惠猛(一昭和八・A.D.1933)著 ⑤大正七刊 ⑥(京大)一・二八・二(龍大)二九一・二五(立大)一七・一

羽賀寺緣起

①(日) Ha-ga-dera-en-ki. ③存、續群書類從第二七

①本緣起は元正天皇靈龜二年(A.D.716)行基菩薩年四十八才の創建にかゝるといふ若狹國羽賀寺緣起なり。神鳥飛來して二羽を刺すの瑞兆により羽賀と稱するに至りしと云ふ。續群書類從(同書完成會本)第二十七卷に二本を収むるも緣起中に記する羽賀寺興廢の狀態及び年代等大略一致すれども前者は大永四年(A.D.1534)「有勅云々」に終り、後者即ち別本と稱するものは「陽光院贈太上天皇御眞驗也。御眞書者。後陽成院天皇之眞筆也云々」に終る。又寫本一本に延寶三年(A.D.1675)の編と記す。

羽黒一流官職法衣規則書上

①(日) Ha-guro-ichi-ryō-kan-shoku-hō-e-ki-soku-kaki-age. ②一卷 ③存、日

本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黒修驗史料記録類 ①光明院編 ②天保一一(A.D.1840)

①羽黒修驗の官職・法衣・妻帯衆徒及び其他の諸規則について羽州光明院が其筋に申達した記録。羽黒修驗研究上の史料。

羽黒、月山、湯殿、三山雅集

①(日) Ha-guro, gee-san, yu-dono, san-zan-ga-shū. ②二卷 ③存 ④東水 ⑤實永七刊 ⑥(谷大、餘大三〇二二)

羽黒三山古實集覽記

①(日) Ha-guro-san-zan-ko-jitsu-shū-ran-ki. ②一卷 ③存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黒修驗史料記録類

①羽黒三山の故實を擧げ、格例四十餘項を記したものである。羽黒口から湯殿に至る道筋の諸神社、小舎々々等残らず、羽黒山に屬すべき由を述べて居り、本書によつて三山諸坊の興廢、眞言天台眞言律等の宗派的競争、三山に對する信仰の大略、三山の支配と諸侯の領地に關する見解等を知ることが出来る。從つて羽黒修驗研究上には看過すべからざる史料で、之も其筋の調査に應じて答申された記録である。(服部如實)

羽黒山修驗廣法灌頂傳持血脈

①(日) Ha-guro-san-shū-gen-ko-ho-kwan-jō-den-jū-kechi-nyaku. ②一卷 ③存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黒修驗史料記録類 ④明治六(A.D.1873)

①羽黒修驗の傳燈血脈で、三山開基驗道宗祖照見大菩薩以下覺音に至る七十七代の入

山在職を記録したもので、覺音は天保七年の入山である。終に「右者開闢以來當明治六年迄歷代八十世年間」とある。

羽黒山修驗柴燈護摩供次第

①(日) Ha-guro-san-shū-gen-sai-jō-go-ma-ku-shi-dai. ②存、日本大藏經第四七修驗道章疏第二法則類 ③圓盛記 ④寛延四(A.D.1751)

①羽黒修驗に修する柴燈護摩供の次第。初めに供養法あり、次に入護摩で壇護摩の次第である。即ち供養法は前方便・門前設具・嚴淨道場・門前法・辯事眞言・堂内入足呪・壇前普禮・淨三業・禮佛・着座・辯備供具・塗香・淨身・燒香・加持香水・加持供物・拍掌辟除・彈指辟除・金剛印明・表白・神分・靈分・祈願・供養・文唱禮・驚覺・發願・五大願・淨三業・三部三昧耶・被甲・金剛擲・四方結・道場觀・三力偈・普通供養・振鈴・送車・諸車・大鈞招・四攝・拍掌辟除・虛空網・剛炎・闍伽・華座・善來偈・重結大界・五供養・塗香・華鬘・燒香・飲食・燈明・普供養・本尊讚・四智讚・入三昧耶・本尊根本印・加持珠・正念誦・敬念誦等の諸印明より成り、入護摩以後は諸佛供養壇・菩薩供養壇・本尊供養壇・諸天供養壇・諸神供養壇の五壇に分れ、羽黒派が天台修驗に出たものであることは隨所に散見される。次に飲食呪あり、還珠法・結願作法を附加し、修驗用心及び壇圖・壇圖等を出してゐるが、畢中及び惠印法流の護摩次第とは餘程の隔たりがあり又複雑である。

羽黒修驗衣體並法用具覺

①(日) Ha-guro-shū-gen-e-tai-narabini-hō-yō-e-obo-e. ②一卷 ③存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黒修驗史料記録類 ④天保四(A.D.1833)

①羽黒修驗所用の衣體や法具の種類を列記した書。即ち片眞紫金結袈裟・結袈裟・直綴・掛衣・淨衣・白袴・摺衣等の圖を擧げて説明し、天頭巾以下草鞋に至る十四種の法具名を出してゐる。羽黒修驗研究上の一史料である。これも其筋の調査に應じて記録されたものであることは、最初の「天保四已十二月十八日眞覺院差出、月番土屋相模守殿江差出控、等覺院」の二行が物語つてゐる。

羽黒派末寺並修驗院跡大數取調帳

①(日) Ha-guro-ha-matsunji-narabini-shū-gen-in-seki-dai-sū-tori-shirabe-chō. ②一卷 ③存、日本大藏經第四八修驗道章疏第三羽黒修驗史料記録類 ④延享年間の表を以て調査されたもので、出羽國飽海郡・諸國散在末寺並妻帯修驗行派神子社職之分・關東筋散在之分の三項に分ち、羽黒派末の寺院の數を計算した書である。これによれば、總計三千七百八十二箇院で、その中五十箇寺が清僧寺・御朱印地修驗が十一箇院あり、羽黒修驗の勢力の地方的分布を知ることが出来る一史料たる

を失はぬ。

羽黒流護摩法口決

(服部如實)

① (日) Ha-gu-ro-ryū-go-ma-hō-ku-ketsu. ② 一卷

存、日本大藏經第四十七修驗道章疏第二法則類

③ 國盛記 ④ 寛延四 (A. D. 1751)

⑤ 開防徳山金剛山教學院第五世が延享四年に羽黒山修驗明了院廣潤師より傳受した羽黒流護摩の口決である。護摩壇の奥に立つる幣帛の神體等につき質問應答を重ねてある。羽黒の法流研究上の史料である。

(服部如實)

把得抄 ① (日) Ha-toku-shū. ② 一卷

③ 存 ④ 良鎮記 ⑤ 永正三 (A. D. 1506)

⑥ 寫本 (曼殊院)

波木井三郎殿御返事 ① (日) Ha-ki-ri-sabu-rō-dono-go-hen-ji. ② 一篇

③ 存、日蓮聖人御遺文之内 ④ 日蓮 (貞應元一 弘安五 A. D. 1222-1282) ⑤ 文永一〇 (A. D. 1273) 入

⑥ 佐渡一ノ谷より甲州の南部六郎三郎に與へた書。法華經の行者は諸難に遭ふことを經證をあげて諭し、日蓮が經文の如く諸難に遭ふは法華經の行者なる實證なりと説き「斯かる日蓮を流罪するは國土滅亡の先兆なり」と論じ、法華經の信を勧めた。

(馬田行啓)

波木井氏への御書 ① (日) Ha-ki-ri-shi-e-no-go-sho. ② 五篇 ③ 存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第六 ④ 日蓮 (貞應元一 弘安五 A. D. 1222-1282)

⑤ 日蓮聖人遺文「中より南部六郎三郎實長即ち波木井氏に與へた消息の内。(一)六郎

恒長御消息、(二)波木井三郎殿御返事、(三)「地引御書」、(四)波木井殿御報、(五)「南部六郎殿御書」の五篇を輯めたもの。

(一)は文永元年安房から與へて、念佛者墮地獄に入法の二種ある旨を明した。 (二)は文永十年佐渡一ノ谷より與へて、法華經の行者値難の理由を説き本門の三大秘法を示した。

(三)は弘安四年身延草庵改築に關し波木井氏の子息達を勤勞せる様を報じたもの。 (四)弘安五年九月十九日身延を出發して常陸の湯へ療養に趣かんとて、道中無事池上宗仲の館へ到著した旨を報ずると共に、種々の心遣を感謝し、且つ栗毛の馬に對する愛情を披露したもの。蓋し日蓮の絶筆であらう。

(五)は撰述年次不明、内容は國家の訪法に關して説示せるもの。

(馬田行啓)

波木井殿御書 ① (日) Ha-ki-ri-do-no-go-sho. ② 一篇 ③ 存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第六 ④ 日蓮 (貞應元一 弘安五 A. D. 1222-1282) ⑤ 弘安五 (A. D. 1282)

⑥ 武藏國池上宗仲の館にて入滅する五日前 (十月七日) 甲州の波木井六郎に與へて、一代行化の概要を敘し、身延九ヶ年間の供養を感謝し、轉じて弟子檀那に對し法華經の信心を勵むべしと勸誡したものである。但し本書の内容が他の諸御書に散在せる文を綴り合せた観があるので、古來眞撰を疑ふ意見がある。反之別項の「波木井殿御報」は極めて簡単に池上へ著した旨を報じてゐるものであるから、この方は確實に眞撰とせられてゐる。

(馬田行啓)

波佐谷法船御札書 ① (日) Ha-sa-dani-hō-sen-on-tadashi-gaki. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本 (龍大)

波斯匿王訶欲最樂經 ① (日) Ha-shi-noku-o-ka-yoku-sai-taku-kyō. (支) Po-sū-ni-wang-ho-yu-tsui-lo-ching. 波斯匿王何欲最樂經、波斯匿王問何欲最樂經 ② 一卷 ③ 增一阿含經第十九卷の抄出。

④ (參考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王經 ① (日) Ha-shi-noku-o-kyō. (支) Po-sū-ni-wang-ching. ② 一卷 ③ 失譯 ④ (參考) 出三藏記第三

波斯匿王詣佛有五威儀經 ① (日) Ha-shi-noku-o-kei-butsu-u-go-i-gi-kyō. (支) Po-sū-ni-wang-i-to-yu-wu-wei-i-ching. ② 一卷 ③ 失譯 ④ 增一阿含經第四十一卷の抄出。 ⑤ (參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王承佛神力到寶坊經 ① (日) Ha-shi-noku-o-shō-butsu-jin-riki-i-hō-bō-kyō. (支) Po-sū-ni-wang-ch'i-teng-to-shēp-i-tao-pao-fang-ching. 波斯匿王蒙佛神力到寶坊經 ② 一卷 ③ 失譯 ④ (參考) 出三藏記第四

波斯匿王祖母命終經 ① (日) Ha-shi-noku-o-so-mo-myō-jin-kyō. (支) po-

ssū-ni-wang-tsu-mu-ming-chung-ching. ② 一卷 ③ 失譯 ④ 雜阿含經第四十六卷の抄出。 ⑤ (參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王太后經 ① (日) Ha-shi-noku-o-tai-gō-kyō. (支) Po-sū-ni-wang-tai-hou-ching. 波斯匿王太后崩廢土全身經、波斯匿王太后崩廢、匿王土全身經、除憂患經 ② 一卷 ③ 存、大正二・五四五No. 122 縮尺六、正一四・二、北724若、南738若、元730若、明北610善、清610善、麗718止、天723若、指696止、法713止、至960仕、明南607緣、Nj. 614 ④ 法炬譯 ⑤ 西晉惠帝代

波斯匿王太后崩廢土全身經 ① (日) Ha-shi-noku-o-tai-gō-hō-jin-do-fu-jin-gyō. (支) Po-sū-ni-wang-tai-hou-feng-ch'en-t'u-jen-shen-ching. (B) S. 3. 3. 2 Ayakā 波斯匿王太后崩廢、匿王土全身經、波斯匿王太后經、除憂患經 ② 一卷 ③ 存、大正二・五四五No. 122 縮尺六、正一四・二、北724若、南738若、元730若、明北610善、清610善、麗718止、天723若、指696止、法713止、至960仕、明南607緣、Nj. 614 ④ 法炬譯 ⑤ 西晉惠帝代

(A. D. 290—306)

①本經は一に波斯匿王太后崩經、匿王空身經、波斯匿王太后經、除愛患經ともいひ、波斯匿王その母の死に遭ふや、悲嘆のあまり、身に塵土を塗つて佛所に往詣し教へを受けしことから、この名が存し、佛自ら本經を除愛患經と名づけられたことから、この別名が存するのである。

本經は母の死によつて哀愁の淵に沈む波斯匿王のために、無常想を説き、老、病、死、恩愛別離の四を大患となすこと、一切の愛盡を説かれたものである。

本經は雜阿含卷四六の第六經の別譯であつて、増一阿含第二六品第七經、別譯雜阿含卷三・一二經またこれに該當するものである。これらを對照するに雜阿含のそれは略述し、増一のそれはその前半に於て詳述し四大患の第四は「有常の物を無常に歸す」となつてゐる。別譯雜阿含のそれは、雜阿含のそれに合するものである。

②〔參考〕三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖記第二、開元錄第二、貞元錄第四

(林五邦)

波斯匿王太后崩塵土空身經

①(日) Ha-shi-noku-o-tai-go-ho-jin-do-fun-jin-gyō. ②一卷 ③存、現代意譯根本佛教聖典叢書第四増一阿含經抄之内 ④赤沼智善譯

波斯匿王女命過詣佛經

①(日) Ha-shi-noku-o-nyo-myo-kwa-kei-butsu-kyō. (支) Po-sst-ni-wang-nu-ming-kuo-i-to-ching. ②一卷 ④失譯 ⑤増一阿含

經第三十四卷の抄出。 ⑦〔參考〕出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王喪母經

①(日) Ha-shi-noku-o-mo-mo-kyō. (支) Po-sst-ni-wang-sang-mu-ching. 波斯匿王經 ②一卷 ③缺 ④宋沮渠京聲(一大明八 A. D. 464)譯

波斯匿王蒙佛神力到寶房經

①(日) Ha-shi-noku-o-mo-butsu-jin-riki-to-ho-bo-kyō. (支) Po-sst-ni-wang-meng-to-shen-i-tao-pao-fang-ching. 波斯匿王承佛神力到寶坊經 ②一卷 ③大集經第二十三卷の抄出。 ④〔參考〕法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

波斯匿王問何欲最樂經

①(日) Ha-shi-noku-o-mon-ka-yoku-sai-raku-kyō. (支) Po-sst-ni-wang-wen-ho-yu-tsui-to-ching. 波斯匿王何欲最樂經、波斯匿王何欲最樂經 ②一卷 ④失譯 ⑦〔參考〕出三藏記第四

波斯匿王欲伐央崛魔羅經

①(日) Ha-shi-noku-o-yoku-butsu-o-ku-tsu-ma-ra-kyō. (支) Po-sst-ni-wang-yu-fa-yang-chueh-mo-to-ching. ②一卷 ③失譯 ④〔參考〕出三藏記第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

波達王經

①(日) Ila-datsu-o-gyō. (支) Po-ta-wang-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯 ⑦〔參考〕出三藏記第三、法經錄第

三、仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第二、第一五、貞元錄第四、第二五

波耶王經

①(日) Ha-ya-o-gyō. (支) Po-ya-wang-ching. ②一卷 ③六度集經第二卷の抄出。 ④〔參考〕開元錄第一六、貞元錄第二六

波羅提木叉

①(日) Ha-ra-dai-mo-ku-sha. (支) Po-lo-ti-mu-ch'a. ②一卷 ③失譯 ⑦〔參考〕出三藏記第四、武周錄第一

波羅提木叉僧祇戒本

①(日) Ila-ra-dai-moku-sha-sō-gi-kai-hon. (支) Po-lo-ti-mu-ch'a-seng-ch'i-chieh-pen. 摩訶僧祇律比丘戒本、僧祇戒本、僧祇比丘戒本、僧祇大比丘戒本、摩訶僧祇戒本、僧祇律比丘戒本 ②一卷 ③存、大正二・五四六 No. 1266 縮列一〇、二一九・八、北901外、南155外、元911外、明北1153外、清1153外、麗910外、天903外、指864隨、法892隨、至1215離、明南1254貴、Nj. 1139

④東晉佛說毘尼律(升平三—元嘉六 A. D. 359—429)譯 ⑤摩訶僧祇律大比丘戒本の下を見よ。

波羅奈婦四姓經

①(日) Ha-ra-na-fu-shi-shō-kyō. (支) Po-lo-nai-fu-sst-hsing-ching. ②一卷 ③缺 ④失譯 ⑦〔參考〕出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

波羅捺經

①(日) Ha-ra-na-kyō. (支) Po-lo-na-ching. ②一卷 ③疑偽經。 ⑦〔參考〕出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

貞元錄第二八

波羅婆堂經

①(日) Ha-ra-ba-dō-kyō. (支) Po-lo-po-tang-ching. (日) D. 27 Agganna S. ③存、中阿含經第三九(大正一・六七三 No. 26, 154)

波羅牢經

①(日) Ha-ra-o-kyō. (支) Po-lo-lao-ching. (日) S. 42, 13 Pajali ③存、中阿含經第四(大正一・四四五 No. 26, 20)

波利比丘謗梵行經

①(日) Ha-ri-bi-ku-bo-ban-gyō-kyō. (支) Po-li-pi-chiu-pang-fan-hsing-ching. ②一卷 ④失譯 ⑤出曜經第十七卷の抄出。 ⑦〔參考〕出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

撰集 ⑦〔參考〕諸宗章疏錄第二

長谷寺緣起

①(日) Ila-se-dera-en-gi. 長谷寺緣起文 ②一卷 ③存、大日本佛教全書第一一八寺誌叢書第二、群書類從第一五、新校群書類從第一九 ④菅原道真(承和一二—延喜三 A. D. 845—903) ⑤長谷寺緣起文の下を見よ。 ⑥享保六刊(高木一・二二)嘉永七寫(谷大・餘卷・二九)寫本(谷大・餘丙・五〇)

長谷寺緣起

①(日) Ila-se-dera-en-gi. 長谷寺本緣起 ②一卷 ③存 ④長谷寺緣起文を和文體にしたもの。尙長谷寺緣起文の下を見よ。 ⑤文化一二刊(谷大・餘大・二八六〇)(正大・一四一・四一)

長谷寺縁起文

① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第一一八、群書類第一六 ④ 菅原道真 (承和一一延喜三 A.D. 845—903) ⑤ 寛平八 (A.D. 896) 二月十日

⑥ 本文は宇多天皇の寛平八年二月十日、大和長谷寺の三綱等が勅を奉じ同寺の開創由來を記して朝廷に奏上したものである。撰者は菅原道真であつて、行基菩薩國符七巻、流記文三巻、本願道聖人上表狀一通等の舊記の要を取つて勘出したものである事を本文中に記してゐる。

内容の主なるものを舉ぐれば、長谷郷名の由來から天武天皇の御代に近江弘福寺の道明聖人の精舎建立、次いでその弟子で當寺の開山である徳道聖人 (齊明二 A.D. 656) が靈夢に一大奇木を得て十一面觀世音像 (巧匠は稽文會、稽主動) を彫刻して安置したこと、天平五年五月十八日の開眼供養のこと、續いて徳道聖人の寺院造營の勸進、天平七年五月十六日の上棟、同十九年九月二十八日及び天平勝寶五年十一月十六日に行はれし供養會の事などの詳細な叙述がある。

從來、長谷寺の縁起として傳へられてゐるものに凡そ次の三本を挙げ得る。即ち長谷寺縁起二巻、長谷寺本縁起附勘文一巻及び長谷寺縁起文である。第一の長谷寺縁起二巻は享保四年 (A.D. 1719) 文照の手による『豐山傳通記三巻』の開板に依り、豐山第十七世隆慶 (慶安一一享保四 A.D. 1649—1719) 摹寫本長谷寺縁起文一巻が世に

出たがそれが漢文體なるを以て一般庶民の爲めこれを和文體繪入本として同六年に別行されたものである。第二のものは前述の隆慶の摹寫本とそれに彼の勘文の註を併せて當寺第三十九世唯阿 (寶曆元—文政六 A.D. 1751—1833) に依り文化十二 (A.D. 1813) 年に單行されたもので此の事は同本の末にある表章跋に徴して明かである。最後のものは即ち道眞の傳眞筆本 (長谷寺所藏) である。今群書類從所載のものは前述の隆慶の摹寫本を底本とし、これに宮内省圖書寮所藏寫眞版本を以て校勘したものである。大日本佛教全書所收のものは唯阿の表章跋を併載してゐるから明かに第二の長谷寺本縁起附勘文一巻と同一のものであつた。

⑦ 勘文を省略したに過ぎない。(不破幹雄) ⑧ 長谷寺縁起剝偽 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、伴信友全集第二 ④ (龍大) (谷大) (外洋) (一〇六一) ⑤ 行譽 (一永享七 A.D. 1435—) ⑥ 承應二刊 (正大、一四一・六五) (高木、寄、一・二二) (哲、一六・中・三〇) 承應四刊 (帝國、二一三・三二五)

⑦ 長谷寺再興縁起 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書續刊豫定書目 ④ 長谷寺造供養 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第一一八 ④ 菅原在豐 ⑤ 康正二 (A.D. 1456) 四月

⑦ 長谷寺觀音靈驗記 ① (日) Ha-se-dera-kwan-on-rei-gen-ki. ② 三巻 ③ 存 ④ 行譽 (一永享七 A.D. 1435—) ⑤ 承應二刊 (正大、一四一・六五) (高木、寄、一・二二) (哲、一六・中・三〇) 承應四刊 (帝國、二一三・三二五)

⑦ 長谷寺再興縁起 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書續刊豫定書目 ④ 長谷寺造供養 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第一一八 ④ 菅原在豐 ⑤ 康正二 (A.D. 1456) 四月

⑦ 後花園天皇の康正二年四月、長谷寺修營の功竣つてその造供養を嚴修し、大般若經六百卷を開題した。本文は即ち此の供養會に當つて當寺の僧綱等の奉つた敬白文であつて菅原在豐の草案にかゝる。(不破幹雄)

⑦ 長谷寺多寶塔文 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、伴信友全集第二 ④ 伴信友 (明和八—弘化元 A.D. 1771—1844) 作 ⑤ 明治四〇刊 ⑥ (帝國、四一・一九一)

⑦ 長谷寺舞臺供養 ① (日) Ha-se-dera-en-gi-bun. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第一一八 ④ 文明二 (A.D. 1490) ⑤ 本文は後土御門天皇の文明十二年の夏、當寺舞臺修營の砌、奉る所の敬白文であつて、専ら十一面觀世音の利生靈驗を讃仰するものである。撰者未詳であるが當寺の僧綱等の手に成るものである事は想像に難くない。(不破幹雄)

⑦ 長谷寺本縁起 ① (日) Ha-se-dera-hon-en-gi. ② 長谷寺縁起 ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 文化一二刊 ⑥ (正大、一四一・六六) (龍大、二九七・四一五) (哲、一四・中・二〇)

⑦ 長谷寺本縁起附勘文 ① (日) Ha-se-dera-hon-en-gi-tsuketari-kam-bun. ② 一巻 ③ 存、豐山傳通記卷上 ④ 隆慶 (慶安二—享保四 A.D. 1649—1719) ⑤ 長谷寺縁起文の下を見よ。⑥ 刊本 (正大、一四一・六六)

⑦ 永享七 (A.D. 1435) ⑧ 本書は大和國長谷寺の十一面觀世音の靈驗を假名文にて記録したものである。上下二巻となし、上巻には第一吉備大臣於大唐讀野馬臺歸朝事より、第十九宇治關白依夢告知灰燼益事に至る十九條、下巻には一當未建立前歸此山者成所願事附諸人得益事より、第三十三祈滅衆生善信轉重輕受得菩提事に至る三十三條を載せてゐるが、何れも當寺の縁起靈驗に關する記録である。撰者行譽はその序文に於て、先づ菅原相勘出の『長谷寺縁起文』によつて當寺の濫觴を説き、次いで本書の體裁に言及し、二巻に定めたのは親疎を分た人が爲めであり、上巻の記事に十九、下巻に三十三の數を撰んだのは觀音の本誓たる十九說法や三十三身を表象したものであると云つてゐる。而して上巻は當寺に存せし舊記より拾錄され、下巻は諸家の記録より撰輯されたものである事も撰者の言に徴して明かである。

⑦ 長谷部水哉遺稿集 ① (日) Ha-se-be-sui-ei-i-ko-shu. ② 一冊 ③ 存 ④ 長谷部水哉遺書刊行會編 ⑤ 刊本 (高大、一五七)

⑦ 破安心相違覺書 ① (日) Ha-an-jin-so-i-ohoe-gaki. ② 存、眞宗全書第五〇 ③ 光圓 (慶長一七一—寛文二 A.D. 1612—1662) ④ 承應三 (A.D. 1654) 九月 ⑤ 本書は眞宗興正派第十九世准秀の『安心相違覺書』に對して本願寺第十三世良如 (光圓) が破斥したものである。

⑦ 破安心相違覺書 ① (日) Ha-an-jin-so-i-ohoe-gaki. ② 存、眞宗全書第五〇 ③ 光圓 (慶長一七一—寛文二 A.D. 1612—1662) ④ 承應三 (A.D. 1654) 九月 ⑤ 本書は眞宗興正派第十九世准秀の『安心相違覺書』に對して本願寺第十三世良如 (光圓) が破斥したものである。

②(參考)淨土真宗教典志第一 ③寫本(龍大・一七三・七) (關哲雄)

破有論 ①(日)Ha-u-ron.(支)Po-yu-lun. 大乘破有論 ②一卷 ③存、大正三〇・二五四 No.1574、縮本一、正二五・一〇・北1305且、南1311肥、元1331肥、明北1298星、清1298星、麗453起、天1291肥、至1384校、明南1433書、Nj.1305 ④龍樹造、施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D.980—) ⑥大乘破有論の下を見よ。

破壞一切心識 ①(日)Ha-e-jō-sai-shin-shiki.(支)Po-huai-i-chieh-hsin-shih. 決定毘尼經 ②一卷 ③存、大正一二・三二 No.323、縮本一、正六・四、北36衣、南37衣、元33衣、明北33衣、清33衣、麗36服、天11衣、指29服、法33服、至103讀、明南33衣、Nj.36 ④西晉竺法護(一泰始二)建興元A.D.265—313—譯 ⑤決定毘尼經の下を見よ。

破奧記 ①(日)Ha-oku-ki. ②一卷 ③存 ④遠師作 ⑤寬永六寫 ⑥(立大、D.C.O.I)

破戒往生章 ①(日)Ha-kai-ō-jō-shō. ②一卷 ③存 ④慈泉洞空(正保二—寶永四A.D.1645—1707) ⑤刊本(正大、一五三二・三〇二)哲、u.ni.左、三三〇

破吉利支丹 ①(日)Ha-ki-ri-shi-tan. ②一卷 ③存 ④鈴木正三(天正七—明曆元A.D.1579—1655) ⑤寬文二刊 ⑥(正大、一〇九一・四五)

破偽顯真錄 ①(日)Ha-gi-ken-shin-toku. ②一卷 ③存 ④嘉興日悅述 ⑤

享保九刊 ①(立大、D.O.二八二)

破空論俗談 ①(日)Ha-ku-ron-zō=ku-dan. ②一冊 ③存 ④刊本(哲、u.四、左・四)

破關擊節錄聽書 ①(日)Ha-kwan-geki-seisu-roku-ki-ki-gaki. 夾山圓悟禪師破關擊節錄聽書 ②一卷 ③存 ④關浪磨、白鳥鼎三編 ⑤(參考) 禪籍目錄

破外道四宗論 ①(日)Ha-ge-dō-shi-shū-ron.(支)Po-wai-tao-ssū-tsung-lun. 提婆菩薩破楞伽經中外道小乘四宗論、破外道小乘四宗論、外道小乘四宗論 ②一卷 ③存、大正三三・一五五 No.1639、縮本五、正二二・五、北649臨、南663臨、元653臨、明北1253逸、清1253逸、麗633金、天649臨、指603命、法635命、至1372甲、明南1396華、Nj.1259 ④菩提流支譯 ⑤後魏永平元—天平二(A.D.508—535) ⑥提婆菩薩破楞伽經中外道小乘四宗論の下を見よ。

破外道小乘四宗論 ①(日)Ha-ge-dō-shō-jō-shi-shū-ron.(支)Po-wai-tao-ssū-tsung-lun. 提婆菩薩破楞伽經中外道小乘四宗論、外道小乘四宗論、破外道四宗論 ②一卷 ③存、大正三三・一五五 No.1639、縮本五、正二二・五、北649臨、南663臨、元653臨、明北1253逸、清1253逸、麗633金、天649臨、指603命、法635命、至1372甲、明南1396華、Nj.1259 ④菩提流支譯 ⑤後魏永平元—天平二(A.D.508—535) ⑥提婆菩薩破楞伽經中外道小乘四宗論の下を見よ。

破外道小乘涅槃論 ①(日)Ha-ge-dō-shō-jō-ne-han-ron.(支)Po-wai-tao-ssū-tsung-lun. 提婆菩薩破楞伽經中外道小乘涅槃論、楞伽外道論、外道小乘涅槃論、釋外道小乘涅槃論、破外道涅槃論、提婆菩薩涅槃論 ②一卷 ③存、大正三三・一五五 No.1640、縮本五、正二二・五、北650臨、南664臨、元656臨、明北1253逸、清1253逸、麗640命、法644命、至1373甲、明南1397華、Nj.1260 ④菩提流支譯 ⑤後魏永平元—天平二(A.D.508—535) ⑥提婆菩薩破楞伽經中外道小乘涅槃論の下を見よ。

破顯要記 ①(日)Ha-ken-yō-ki. ②一卷 ③源信(天慶五—寬仁元A.D.942—1017)述

惠心僧都全集第一所收の「觀無量壽經顯要記破文」佛敎金書第三十一には顯要記破文とすのことか。

②(參考)淨土真宗教典志第一

破誤鈔 ①(日)Ha-go-shō. ②一卷 ③存 ④勢範談 ⑤(正教藏)

破山語錄 ①(日)Ha-san-go-roku. ②十二冊 ③存 ④(參考) 禪籍目錄

破地獄軌 ①(日)Ha-ji-goku-ki.(支)Po-ti-yū-kuei. 佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地真言儀軌 ②一卷 ③存、大正一八・九一二 No.936、縮本三、正續一・三・三 ④善無畏(貞觀一一—開元二三A.D.637—735)譯 ⑤唐開元五—一二(A.D.717—735) ⑥佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地真言儀軌の下を見よ。

破色心論 ①(日)Ha-shiki-shin-ron.(支)Po-se-hsin-lun. 唯識論、大乘楞伽經唯識論、楞伽經唯識論、楞伽唯識論、唯識無境論、唯識無境界論 ②一卷 ③存、大正三三・六三 No.1588、縮本九、正二二・四、北614忠、南628忠、元620忠、明北1232靜、清1232靜、麗620力、天618忠、指577力、法600竭、至1360丙、明南1365都、Nj.1238 ④般若流支譯 ⑤後魏元象元—武定元(A.D.538—552) ⑥唯識論の下を見よ。

破邪決 ①(日)Ha-ja-kei-su. 對決幻虎錄解 ②二卷 ③存 ④顯慧述 ⑤寶永六刊(谷大、長保・三一一)(高、大、寄・一一四)正德四寫(正大、一三七・三三)

破邪訣

①(日)Ha-jia-ketsu. ②1冊
③存 ④佐治實然著 ⑤明治一八刊 ⑥(高
大・一・二四)

破邪顯正異四時篇

①(日)Ha-jia-
ken-sho-jish-i-ken. ②1卷 ③存 ④
寫本(谷大・宗大・三二〇八)

破邪顯正記

①(日)Ha-jia-ken-sho-
ji. ②五卷 ③存、大日本佛教全書第九七
④眞追(慶長元一萬治二 A.D. 1596—1659
一說年六四歳によつて) ⑤寛永一四(A.D.
1637)

⑥本書は比叡山首楞嚴院沙門眞追が四十二
歳寛永十四年の時の著作にして日蓮の説を
邪見とし此れを説破して正法を顯揚せんと
したものである。初めに傳を寸見するに眞
追幼にして日蓮宗に入り日舜に隨つて剃髮
し日追と稱し、後下總法輪寺にあつて宗學
研鑽に勤め元和七年上洛日源より一宗の深
義を相承し各地に講經傳道に精進し著作を
なし來るも諸宗研究の結果日蓮宗義に満足
せず遂に天台宗に心服、叡山首楞嚴院に寓
居し名を眞追と改む。稱名念佛怠らず或は
天台の請により東叡山に下り、或は横川に
在つては舜統院と號し、天台の深旨講讀に
努力して日蓮の主張を邪義として彈阿す。
後醍醐に隱棲し萬治二年十二月入寂す。享
壽六十四歳と云ふ。著書に十宗略記、西谷
名目鈔等あり、本書は其の代表的なもので
ある。彼の改宗は寛永十一年十月と云は
れ、本書は其の四年目に發表せられて居る。
彼の轉宗は日蓮宗に大きに衝動を與へたら
しく一寺の貫主となつた後に宗旨を改め且

つ元の宗を離破したため反僧として種々の
批評を蒙つた事や、眞追自身廣い眼界に
あつて佛教を大觀する事に志した事は本書
の初頭より推定せられる。かく天台・日蓮
兩宗が露骨な宗論を試みるに至つた原因を
見れば眞追の本書撰述の當然さを首肯す可
きものがあらう。

其は眞追の本書述作一三四年前叡山の圓
信が巨彈を日蓮宗陣に放つた事が最も大き
い所であらう。即ち山門無動寺尊海の一僕
徒日蓮なるもの師の妙義を聞き名利を慕ら
んために邪義を正直の佛語にかり、誑妄
説を實相妙理に於てするを悲しみ、偶々伊
勢佛眼院講經を緣として永正元年破日蓮義
二卷(佛教全書第九七)を撰述して六十二條
に亘つて日蓮の邪説を難す。時に鎌倉妙法
寺日澄遠く是れを聞き日出台隱記二卷(佛
教全書第七九)を直に撰して圓信の難を釋
す。かくて天文五年七月には叡山が日蓮徒
の法華宗號を用ふるを將軍に訴へ、宗論後
僧兵等と衝突して洛中の日蓮宗諸山兵火を
蒙つて全滅の悲運にあふ。天正七年には所
謂安土問答あり、此の前後に天台・淨土と
相争ふ。天正十三年上總に在つて天台の徒
と諍論し死者數十人を出せる如く各地に角
試す。蓋しかゝる狀勢下に宗論書の現るゝ
は當然であり、其の代表的ものが本書で
ある。

彼が轉宗の動機と撰述原因を本書より汲
出するに「當世ノ人ノアリサマヲミルニ眞
實ニ後生ヲ恐レ佛法ノ正理ヲキ、ワケント
スルモノハナシ。皆但我慢偏執ヲサキト

シ、名聞利養にフケリテロニ任セテ人ヲソ
シルナリ」と當時の佛教界の狀勢を難じ、
近年ニ至リテ粗精ノ章疏ヲ見、普ク諸祖
ノ意ヲ窺ヒ時機ヲ鑑ミ邪正ヲ勘フルニ台密
禪律念佛俱ニ各ノ其ノ利益アリ。叡山ノ一
宗是等一宗ヲ惣セリ。日蓮ノ所立ハ曲會私
情ト見付畢ヌ」要する所、彼が日蓮宗にあ
つての不動の地位と宗學とを敢然振切つて
富貴をしりぞけ所信の満足を叡山教學に求
め「余ハ傳教大師・慈覺大師・惠心僧都ノ御
義ニ任ス」と師表を選び研究態度を明らかに
「カヤウニ身ノ衰ルヲモイトハズ正法ニ歸
伏シては邪を破し正直を顯揚せんため」天
下ノ日蓮黨ノ邪正ヲモシラズ、ロニ任セ
テ諸宗ヲ誹謗スル者ヲ憂ル心少シアルガ故
ニ」本書の撰述となつて居る。本書は先の
日澄の日出台隱記の徹底的反駁とも見られ
る。全五卷六十七條に亘つて詳述する所で
其の要目を列記せば次の如し。

〔第一卷〕捨邪宗・歸正法・是恒例事。日
蓮所立背・法華正義・故非・上行菩薩化身・
事。日蓮所立四十餘年未顯眞實之文旨僻見
事。日蓮僻・解正直捨方便等文事。日蓮僻・
解乃至不受餘經一偈文事。〔第二卷〕日
蓮依・無量義經・立前無得道・是僻見事。日
蓮僻・解十方佛土中唯有一乘法等文事。日
蓮僻・解若以小乘化乃至於一人等文事。日
蓮僻・解一切菩薩阿耨多羅三藐三菩提經文事。
日蓮僻・解真觀權出界名為虛出釋・事。見諸菩
薩受記作佛文事。始見我身入如來慧文事。
菩薩處々得入等釋事。傳教大師爾前成佛之
文事。日蓮巧・會爾前成佛文義・是僻見事。

日蓮黨所談無智道俗唱題成佛是妄說事。若
有開法者無一不成佛並聞一偈一句一念隨喜
皆當作佛文事。須臾聞之即得究竟文事。是人
於佛道決定無有疑文事。日蓮所立但安凡夫
臨終成佛是妄說事。其人命終入阿鼻獄之文
旨事。濁世惡比丘不知佛方便等文旨事。安
樂行品說相是末法當時弘經方軌事。一念信
解及五十展轉隨喜位日蓮僻說事。日蓮所立
時機相應當家法門非・眞正義・事。法華經後
五百淺廣宜流布現證事。大集經白法隱沒日
蓮僻說事。日蓮指日本・爲・唯法華之國・是
僻說事。〔第三卷〕末代圓頓行者所期淨土
西方安樂世界事。往生之業有相無相多種
事。西方佛別緣異等釋義日蓮僻說事。日蓮
僻・解無量義經難易二道・事。日蓮不・許・惡
人女人之念佛往生・是僻謬事。日蓮念佛無
間之所立大謗法事。日蓮書念佛者臨終惡相
是妄說事。〔第四卷〕眞言密教非・方等部攝
屬事。日蓮所立大日經對・法華經・七重下劣
是大僻見事。法師三說藥王十喻等不・關・密
教・事。傳教大師眞言傳持事。眞言即身成
佛本文事。六波羅密經五藏事。慈覺大師理
同事勝釋事。顯密多種事。眞言教有・記小
久成・事。日蓮假・解文句記含光語・事。日
蓮眞言七重疑難大僻見事。日蓮書大日如來
爲・他受用身・是僻解事。日蓮妄破・善無畏・
金剛智・不空・三・藏・事。日蓮妄破・不空三
藏觀智儀軌・事。日蓮以・明雲橫死平家沒落
爲・眞言亡國之現證・以・賴朝・爲・法華行者・
是誰惑事。日蓮以・承久兵亂一院敗軍・爲・
眞言亡國之現證・以・義時・爲・法華行者・是
誰惑事。日蓮黨所用北野神託不審事。日蓮

名所行啓①(名庫書)高麗所撰②月年の刊蓋③(書考抄書釋註)書太④説解管内⑤代年作書⑥著書⑦缺存⑧歌卷⑨(名書)名題⑩號略字數

書中有密勝顯劣之語事。(第五卷) 禪宗教外別傳佛經有「證據」事。法華妙體即禪法事。一念信解所比禪法是別教事。天台大師非破達磨宗事。上宮太子傳教大師等明哲信用禪宗事。娑婆世界得道不限聲教事。一贊寧三教論事。日蓮所立末法不持戒義違背經釋事。三種番神事。日蓮折伏諸宗事。是實訪法而非宗旨建立之方便事。佛者薩力不能破壞邪宗事。當世諸人要行在「往生要集」事。

かく眞道が日蓮觀は爾前無得道、諸宗無得道と立て、他宗他經を破棄するため、正しく謗法の罪人にして無間地獄の業族であるとす。従つて本書は台・日法華觀の相違、念佛・台密・禪・戒を顯揚して日蓮の鮮見を是正する所である。

尙、本書の影響に就て一見するに、眞道が本書の論旨に對して日蓮宗徒に大打撃を與へたるものとして猛烈な反駁書が現れた。即ち日賢の論述復宗決一卷、同別記(共に佛教全書第九七)、正保四年日領が日蓮本地義二卷(佛教全書第九七)並に法華格言一卷、慶安三年日蓮が練達論十卷、同四年日航が權邪眞道記五卷を以つて破邪顯正記に抗した。此れに對して承應三年九月眞道の弟子と傳ふる眞陽が禁斷日蓮義十卷、同追加一卷を以つて眞道說に贊同して居る。更に萬治三年日存は金山鈔十卷、延寶四年日題は中正論二十卷を述作して眞道・眞陽說に反撃を加ふ。斯様に眞道の説は日蓮宗に痛切に響く所があり、以來日蓮に對する各宗が彼の説を參照し依憑するに至つて居る。

る。思へば日蓮宗出身の眞道が反つて元の宗を難し破邪顯正を以つてする日蓮宗に臨むに破邪顯正とする皮肉さよ。

天台・日蓮兩宗の相違の研究には必讀の好書たるは勿論、天台宗徒自身に對しても四宗各門の知識と各宗との所説相違を知らしむる指針となるに疑はない。

⑦(參考) 法華宗門著述目錄(日道の條)

⑧寛永一四刊(龍大、二八・二二・二八、二〇三・四二)(正大、一五七・二三)(谷大)寛永一六刊(谷大、餘大・九〇五)(立大、A〇五・一六一二〇) (渡邊最昌)

破邪顯正記續補 ①(日)Hajikae and Hicikae Ho. ②一卷 ③存、大日本佛教全書第九七 ④眞道(慶長元一萬治二A.D. 1596—1639) ⑤說年六四寂による) ⑥寛永一六(A.D. 1639)

⑧破邪顯正記五卷の追補。問答を以つて眞道自身が日蓮宗を改めて天台義に服し、日蓮の説を邪見なりとし、魔説退治の所以を明らかにして居る。而して眞道が佛教觀を卷末に「邪見正見本無差相、佛法世法一槌打喪」と云ふは論議者としての彼が歸着せしめんとする態度を物語るものであらう。

尙後跋に寛永己卯とあるより見れば寛永十四年破邪顯正記を述作した二年後の寛永十六年迄には追補として述作せられて居つたものと思ふ。(渡邊最昌)

破邪顯正義

①(日)Hajikae and Hicikae Ho. ②一卷 ③存、淨土宗全書第一二 ④聖阿(麻應四一應永二七A.D. 1341—1430)述

①本書は鹿島問答ともいはれてゐる。破邪顯正義とは内容に依り、鹿島問答とは、問師參籠の處に因つて名づけたものである。

内容を見るに、本書の大綱は標題の如く邪義を破して、正義を顯はさんと努めたものである。即ち老翁と老女との問答に託して、鹿島明神の本地は阿彌陀如來であるが、然しながら機縁に應じて、或は觀音、釋迦、大日、藥師等として顯はれ給ふことを明し、元來神と佛とは本地垂迹の姿であつて、何れも衆生を救済する、隨類應現の形である、故に本來佛教を保護し、念佛する者を受念し給ふのが本意である。されば神社に參詣し、神前に禮拜する時、念佛誦經が大切であるのに、世人やもすれば、念佛は却つて不敬であると考へてゐるのは、それは大なる誤りである。又禪宗の夢窓國師が夢中問答を作つて、淨土宗が念佛已外の諸行を難行道と名づけたことを非難し、或は又淨土の教は却つて小乗である等と攻撃されてあるのを論破し、又ある一部の人々が聖德太子の像を祠つて(恐くは眞宗)、觀音勢至の像を造るは難行であるといひ、或は精進齋齋して念佛を勵むは自力の念佛であると非難してゐる迷妄を破り、或は當時盛んに民間に流行した、踊り念佛の無意義を論じ、或は日蓮が念佛無間の旗を掲げて盛んに攻撃したのを破破し、淨土宗至極の教義である、生即無生、他力實體の深義、九品差別の有無、淨土易行の實義を顯彰せんと企てられたものである。而してこれが十八段として述べられてゐるのは、或は十八願の數を取つたものかと考へる。即ち(一)鹿島明神の緣起、(二)鹿島明神の御本地、(三)念佛の行者は神明の參詣を誠むべきか、(四)念佛の行者は現世の福樂を祈るべからず、(五)往生の一門に限つて何んぞ偏に欣慕せしむるや、(六)得悟の人の奇特の有無、(七)十方淨土の中に於て西方は最も易行道なり、(八)夢窓國師佛の説教の多少を以て難易二道を判ずるの可否、(九)觀音勢至の二菩薩を除いて聖德太子を以て本尊と仰ぐの可否、(十)念佛行者の精進齋齋若くは數過を重ねるを自力と排斥するの可否、(十一)念佛の行儀に三種あり、(十二)踊り念佛の行儀は經論の文義に背く、(十四)日蓮上人念佛を以て無間地獄の業となす、(十五)夢窓國師淨土を以て小乗に屬す、(十六)有相に著する人は實體を知らざるが故に往生すべからざるか、(十七)九品の差別を明すが故に極樂は一乘の世界にあらざるか、(十八)常に此處にて見奉る何人なりや。已上十八題を擧げて、邪義を破して正義を顯はされてゐるのが本書の大意である。而して本書は問師の著述としては最も通俗的の書き方である。註釋書に就ては、余嘉閑にして未だこれあることを聞かない。然しながら問師は頗る我國の神道并に國文學に通じ、其の著述としては日本書紀私鈔三卷并に人王百代具名記一卷、魔氣記私鈔十四卷、魔氣記拾遺鈔一卷、古今序註十卷があるから、此等は參考すべきである。

⑦(參考) 淨土正依經論書籍目錄 ⑧承應四刊(正大、一五五四・一〇四)(京大、藏・一

五八・一) (立大、A.O五・一七五) 文政二刊
(龍大、二六八四・一三九) (正大、一五五四・
一〇五、一〇七、一〇九、二三三) (谷大、宗
大・九二〇)

破邪顯正義

① (日) Ha-ja-ken-sho-
gi. 訂正重刻破邪顯正義 ② 一巻 ③ 存

破邪顯正五要問答

① (日) Ha-ja-ken-sho-go-yo-mon-do. ② 一巻 ③ 正曉
龍溪述 ④ 寛延三 (A.D. 1750) ⑤ 淨土眞
宗教典義第二に云く「辨破鎮徒運潮寺體信
譏訛眞宗一凡五條」云云。

破邪顯正御消息注釋

① (日) Ha-ja-ken-sho-go-sho-soku-chu-shaku. ②
一巻 ③ 存 ④ 占部親順 (文政七—明治四
三 A.D. 1824—1910) 述 ⑤ 明治三五刊 ⑥
(龍大、一七七・一一)

破邪顯正鈔

① (日) Ha-ja-ken-sho-
sho. ② 三巻 ③ 存、眞宗假名聖教第三、
眞宗法要第一三、眞宗聖教大全卷上、假名聖
教 (惠空筆寫) 八十八部 ④ 存覺 (正應三
—應安六 A.D. 1290—1373) ⑤ 元亨四 (A.
D. 1324) 八月

⑥ 康安二年の存覺の淨典目錄には「空性房
了源」の所望によつて草すところ、諸目錄
みな之を受け、奥書に元亨四歲甲子八月二
十二日假慈材辨記此綱要蓋是爲防謗
家爲立眞門所選集也努力々々不可
外見而已とあり、又假名聖教本等には其
の後に「大谷本願寺親鸞聖人之御流之正理
也、本願寺住持存如判」を加へて流布の權
威としてゐる。

然して本鈔の内容は、其の初めに「專修
念佛の行人某等謹で言上はやく山寺聖道の
諸僧ならびに山臥巫女陰陽師等が無實非分
の謾言誑妨を停止せられてかつは歸佛信法
の懇志に優せられかつは治國撫民の恩憐を
たれられてものとごとく本宅に還住して念
佛を勤行すべきよし裁許をかうふらんとお
もふ子細の事」と述べ、聖道諸僧や山伏等
が官邊に淨土眞宗を議せんとし、又其の命
なりとて迫害するに對し、先づ破邪顯正の
内心懷ける意を述べ、以下「一向專修念
佛といふは佛法にあらず外道の法なるに
りてこれを停止せらるべきよしの事」、「法
華眞言等の大乘をもて雜行と稱する條しか
るべからざるよしの事」等々十七ヶ條に涉
りて明確詳細に論述し以て眞宗の正意を顯
正してゐる。

⑦ (參考) 淨土眞宗聖教目錄、淨土眞宗教
典志第一、第二、眞宗假名聖教目錄、淨典
目錄 ⑧ 明曆四寫 (谷大、宗大・三〇四五) 元
祿二寫 (谷大、宗甲・二二) 端ノ坊本 (谷大、宗
丙・七三) 寫本 (龍大、別置) (禿諦住)

破邪顯正鈔聞書

① (日) Ha-ja-ken-
sho-sho-ki-kaiki. 四種破邪顯正鈔 ② 一
巻 ③ 存 ④ 宣明 (寛延二—文政四 A.D.
1749—1812) 述 ⑤ 天保一二寫 ⑥ (谷大、
宗大・三八五三)

破邪顯正鈔口筆

① (日) Ha-ja-ken-
sho-sho-ku-hitsu. ② 一巻 ③ 存 ④ 智現
(—天保六 A.D. 1835) 述 ⑤ (參考) 眞宗
大系刊行豫定書目

破邪顯正鈔講義

① (日) Ha-ja-ken

sho-sho-ko-gi. ② 一巻 ③ 存 ④ 法住
(—明治七 A.D. 1874) 述 ⑤ (參考) 眞宗
大系刊行豫定書目

破邪顯正鈔篇目

① (日) Ha-ja-ken-
sho-sho-hen-moku. ② 一巻 ③ 存、異義
集 (了祥稿本) 第十巻 ④ 了祥 (天明八—天
保一三 A.D. 1788—842) 編

⑤ 存覺の元亨四年に著せる破邪顯正鈔に舉
ぐる所の十七ヶ條につづて其の「一向專修
念佛といふは佛法に非ず外道の法なるに依
てこれを停止せらるべきよしの事」等の項
目を列舉編輯せるもので、最後に了祥の奥
書を附し、「私云「一期記中は正中元 (元亨
四改元) 七月廿四日愛光誕生 在所佛
正山科興正寺予致供養了裝束純衣甲袈裟
也」と、この年正月六日眞要抄同十二日本
懷集改作也」とある。

破邪顯正鈔戊辰記

① (日) Ha-ja-ken-sho-sho-do-shin-ki. ② 三巻 ③ 存、
眞宗大系第二七 ④ 義導 (文化二—明治一
四 A.D. 1805—1881) ⑤ 明治元 (A.D. 1868)

⑥ 存覺の著「破邪顯正鈔」三巻にのつて同
じく三巻に涉りて解説せるもので、初めに
著者存覺の著述概説を試みて本鈔の位置を
考察し、次に本鈔に就いて其の來意を述べ、
其れが諸道の諸僧山伏等が無實の難題を申
しかけて鎌倉に訴へ、官邊も亦之れに組し
て迫害を加へんとし、共に我が眞宗に對
して亂妨を企てるによつて、眞宗の正意を
顯はされたものたるを述べ、次に本鈔の大
意、題號等を合せて考證し、最後に文に入

りて其の著の緣起として著者の擧げたるも
のより、全十七條並に結文に至るまでを、
種々に其の當時の事情まで合せ考へ、懇切
に解説を施してゐる。蓋しこの記は東西を
通じて破邪顯正鈔解説の第一位に置かるべ
きものであらう。

破邪顯正鈔略述

① (日) Ha-ja-ken-
sho-sho-ryaku-jutsu. ② 一巻 ③ 存 ④
吉谷覺壽 (天保一—大正三 A.D. 1842—
1914) 述 ⑤ 明治四〇寫 (谷大、宗小・一七
三) (龍大、一二四・二六) 明治四二刊 (立大、
A四〇・一〇三)

破邪顯正辨

① (日) Ha-ja-ken-sho-
ben. ② 一巻 ③ 存 ④ 寫本 (龍大、一五〇
二・五九)

破邪顯正錄

① (日) Ha-ja-ken-sho-
roku. ② 一巻 ③ 存 ④ 恒教日智記 ⑤ 明
治四三寫 ⑥ (立大、D〇・八六)

破邪顯正論

① (日) Ha-ja-ken-sho-
ron. ② 一巻 ③ 存 ④ 吉岡信行著 ⑤ 明
治一五刊 ⑥ (谷大、餘大・一二六四)

破邪集

① (日) Ha-ja-shu. ② 八巻
③ 存 ④ 安政二刊 ⑤ (龍大、二八四・二
六) (正大、一〇九・二八)

破邪鈔

① (日) Ha-ja-sho. ② 一巻
③ 存 ④ 道觀述 ⑤ 日蓮義を破斥したるも
の。⑥ 刊本 (谷大、餘大・二五七六)

破邪新論

① (日) Ha-ja-shin-ron.
② 一冊 ③ 存 ④ 井上圓了 (安政五—大正
八 A.D. 1858—1919) 述 ⑤ 明治一八刊
(龍大、二八一四・二七) (京專)

破邪叢書

① (日) Ha-ja-so-sho. ②

二冊 ③存 ④神崎一作著 ⑤刊本(龍大、研真)

破邪答問 ①(日)Ha-ja-to-mon. ②

一卷 ③存 ④西大 ⑤心血脈集を評破したものである。⑥寛政七篇(谷大、宗大・三〇六三)大正六篇(谷大、宗大・二八三四)

破邪辨正記 ①(日)Ha-ja-ben-sho-ki.

①本朝台祖撰述密部書目に云く「自序云、天仁二年唐院眞言藏下司釋藥傷記、自天仁二年、享保三年、得二百六十年、〇果實云、松養坊眞源破……云々。アサハ持世菩薩卷、眞源法橋圖出之云云。自在金剛集第八に云く「勝陽房藥傷。仁和寺惠什疑難山家相承脈譜、藥傷撰二卷救之、天仁二年己丑臘月撰述。大疏啓蒙云、松養房眞源法橋述、更詳」云云。

破邪法日蓮記 ①(日)Ha-ja-ho-ni-chi-ri-ki. ②十卷 ③存 ④大正八篇 ⑤

(立大、D.O.一三)

破邪問答 ①(日)Ha-ja-mon-do. ②

三卷 ③存、眞宗全書第五〇 ④月感(慶長五一延寶二A.D.1600—1674) ⑤承應二(A.D.1653)

破邪論集 ①(日)Ha-ja-ron-shu.

(支)Po-hsieh-jun-chi. ②三十卷 ③虞世南 ④(参考) 奈良朝現在一切經疏目錄2869

破邪論聞記略抄 ①(日)Ha-ja-ron-mon-ki-ryaku-sho. ②一卷 ③存 ④圓

解(明和四一天保一一A.D.1767—1840)述 ⑤文化一四(A.D.1817) ⑥文化三篇 ⑦(谷大、餘大・二二一五)

破邪問對 ①(日)Ha-ja-mon-tai.

冠註補正破塵問對 ②一卷 ③存 ④占部觀順(文政七一明治四三A.D.1824—1910)

大、宗大・一九四、龍大・一七三・八) (木下靖夫)

破邪餘論 ①(日)Ha-ja-yo-ron. ②

一卷 ③存 ④龍大、二八一四・四五) 破邪立正記 ①(日)Ha-ja-ta-sho-ki. ②一卷 ③存 ④日講 ⑤寫本(立大、D.O.二二六)

破邪論 ①(日)Ha-ja-ron. (支)Po-

hieh-jun. ②二卷 ③存、大正五二・四七四 No.2109。縮露八、正三〇・五、北1079既、南1093既、元1090既、明北1493既、清1524曲、麗1084既、天1075既、指1038既、法1066既、至1535約、明南1472冠、正1500

法琳撰 唐武德五(A.D.622)

①唐の高宗の武德四年、太史令傅奕なる者、佛教寺塔を減省し、僧尼を廢し、國を益し民を利せんとするの策十一條を上つたから法琳大にこれを憂ひ、本論二卷を著して之を反駁した爲に、終に其の説が行はれなかつた。

破邪論集 ①(日)Ha-ja-ron-shu.

(支)Po-hsieh-jun-chi. ②三十卷 ③虞世南 ④(参考) 奈良朝現在一切經疏目錄2869

破邪論聞記略抄 ①(日)Ha-ja-ron-mon-ki-ryaku-sho. ②一卷 ③存 ④圓

解(明和四一天保一一A.D.1767—1840)述 ⑤文化一四(A.D.1817) ⑥文化三篇 ⑦(谷大、餘大・二二一五)

破邪問對 ①(日)Ha-ja-mon-tai.

冠註補正破塵問對 ②一卷 ③存 ④占部觀順(文政七一明治四三A.D.1824—1910)

破邪問對 ①(日)Ha-ja-mon-tai.

冠註補正破塵問對 ②一卷 ③存 ④占部觀順(文政七一明治四三A.D.1824—1910)

破斥教誡義 ①(日)Ha-shaku-kyo-kai-gi. ②一卷 ③存 ④秀雄著 ⑤明治二二刊 ⑥(帝國、一九一四)

破斥行信問答 ①(日)Ha-shaku-gyo-shin-mon-do. ②一卷 ③存 ④島村

自責 ⑤隱寫(龍大、一七九九・一七) 破斥釋教正謬 ①(日)Ha-shaku-shak-kyo-sho-myū. ②一卷 ③存 ④細川

千巖(天保五—明治三〇A.D.1834—1897)

述 ⑤寫本(谷大、餘大・一六六五) 破拆追善決擇篇 ①(日)Ha-shaku-tsui-zen-kec-chaku-hen. ②二卷 ③存

榮鏗(享保一四—文化八A.D.1729—1811)述 ⑤寫本(龍大、一五〇二・一五九)

破釋評判 ①(日)Ha-shaku-hyōban. ②二冊 ③存 ④寛文二〇刊(京大、一・二五八・一)(龍大、一五〇二・一八五)寫本(龍大、一五〇二・一八六)

破取著不壞假名論 ①(日)Ha-shu-jaku-fu-e-ke-myō-ron. (支)Po-chu-cho-pu-huai-chia-ming-lun. 金剛般若波羅蜜

經破取著不壞假名論、功德施論 ②二卷 ③存、大正二五・八八七No.1515、縮往六、正二一・八、北554、南577、元571、明北1185、清1183、麗565、天569、指527、法551、至1286、都、明南1323、離、正1192 ④地婆訶羅譯 ⑤唐永淳二(A.D.683) ⑥金剛般若波羅蜜經破取著不壞假名論の下を見よ。 ⑦(参考) 開元錄第九、貞元錄第二二

破收義 ①(日)Ha-shu-gi. ②二冊

③存 ④恭畏(永祿八—寛永七A.D.1565—1630)述 ⑤刊本(高木、一・二四)

破十軍修佛道私記 ①(日)Ha-shu-shu-butsu-do-shi-ki. ②存、日本大

藏經第四〇天台宗顯教章疏第二、傳教大師全集第二(舊)、第四(新) ④寂澄(神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822)述 ⑤原本は、比叡山寶藏坊所藏古寫本一卷、書者及年時共に不詳、雜寶藏經に、煩惱を魔軍とし十種に分類してあるが、その十種の二々に、簡潔な略註を附したものが、當口決である。十種の魔軍は、智度論十五、小止觀にも掲げられてある。慈本錄、龍堂錄共に大師撰として錄せり、或は大師の撰歟。十種の魔軍とは、欲、憂、忿、飢渴、渴愛、睡眠、怖畏、疑悔、瞋恚、利養、自憍慢人であり、之等の十は、等しく、佛法修行の上に、邪魔となり、正道を礙るが故に、之を魔軍と考へたもので、以上の十魔を、破すと共に、「一乘行を修し、六箇の功德を得ば、善中の明珠を賜はん云云」と記してある。

破十劫義御文章 ①(日)Ha-jik-gō-gi-go-bun-sho. ②一卷 ③存 ④道迢

⑤寫本(龍大) 破聖敵 ①(日)Ha-shō-teki. ②一卷 ③存 ④河口秋次著 ⑤明治三七刊 ⑥(帝國、七九・二九六)

破塵問對 ①(日)Ha-jim-mon-tai.

冠註補正破塵問對 ②一卷 ③存 ④占部觀順(文政七一明治四三A.D.1824—1910)

破十軍修佛道私記 ①(日)Ha-shu-shu-butsu-do-shi-ki. ②存、日本大藏經第四〇天台宗顯教章疏第二、傳教大師全集第二(舊)、第四(新) ④寂澄(神護景雲元—弘仁一三A.D.767—822)述 ⑤原本は、比叡山寶藏坊所藏古寫本一卷、書者及年時共に不詳、雜寶藏經に、煩惱を魔軍とし十種に分類してあるが、その十種の二々に、簡潔な略註を附したものが、當口決である。十種の魔軍は、智度論十五、小止觀にも掲げられてある。慈本錄、龍堂錄共に大師撰として錄せり、或は大師の撰歟。十種の魔軍とは、欲、憂、忿、飢渴、渴愛、睡眠、怖畏、疑悔、瞋恚、利養、自憍慢人であり、之等の十は、等しく、佛法修行の上に、邪魔となり、正道を礙るが故に、之を魔軍と考へたもので、以上の十魔を、破すと共に、「一乘行を修し、六箇の功德を得ば、善中の明珠を賜はん云云」と記してある。

⑤明治三刊 ①龍大、一七七・九(谷大、宗小・四六)

破慶問對後編 ①(日)Ha-jin-mon-tai-to-ten. ②二卷 ③存 ④占部親順(文政七)明治四三A.D.1834-1910) ⑤

明治三〇刊 ①(谷大、宗洋・五四三) ②燈輯要卷下 ③丁月(一永正元A.D.1504)述

破清濁 ①(日)Ha-sei-daku. ②存、傳

④常陸國瓜連常福寺の住僧英譽丁月の著述で、淨土宗相傳に關する書である。文明十四年飯沼弘經寺の住持了曉授手印請決を著し淨土宗傳法中手印に關して意見を發表するや、了月は文明十六年顯手印請決邪正義を作り了曉の説を駁したが、了曉の弟子勢譽愚底は手印請決清濁を作り邪正義の説を反駁して師説を辯護したので、了月は此の書を著して清濁の説を辯駁したのである。

破石集 ①(日)Ha-sei-shū. ②一卷 ③存 ④什門日鑑 ⑤寫本(立大、D.O.二一四)

破選擇邪輪 ①(日)Ha-sen-chaku-jia-in. 權邪輪、選擇集中權邪輪 ②三卷 ③存、日本大藏經第三八華嚴宗章疏卷下、淨土宗全書第八 ④明惠高辨(承安三)貞永元A.D.1173-1232)說貞永元、年六一寂)述 ⑤建曆二(A.D.1212) ⑥權邪輪の下を見よ。 ⑦(參考) 淨土依憑經論章疏目錄

破選擇邪輪莊嚴記 ①(日)Ha-sen-chaku-jia-rin-shō-gon-ki. 權邪輪莊嚴記 ②一卷 ③存、日本大藏經第三八華嚴宗章

疏卷下、淨土宗全書第八 ④明惠高辨(承安三)貞永元A.D.1173-1232)說貞永元、年六一寂)述 ⑤權邪輪莊嚴記の下を見よ。 ⑦(參考) 淨土依憑經論章疏目錄

破草鞋 ①(日)Ha-so-ai. ②一卷 ③存 ④元養 ⑤享保六刊 ⑥龍大、二〇五二・四六

破提字子 ①(日)Ha-tai-shi. ②一卷 ③存 ④ベビアン(巴里弁) ⑤刊本(龍大、二八一四・二八)(正大、一〇九一・四三・四四)

破鳥鼠論 ①(日)Ha-chō-so-ron. ②一卷 ③存、日蓮宗學全書第五、信仰叢書之内 ④日講(寛永三一)元祿一一A.D.1656-1698)述

⑤文政の頃妙覺寺日奥によつて創唱せられたる不受不施の法義は、寛永年間池上日樹對身延の抗諍となり、寛文五年に到つて幕府は寺領朱印皆これ布施物なれば布施受領の手形誓書を提出せざるものは、これを沒收し、一舉に不受不施の主張を撲滅せんとした。乃ち不受不施側に輒論興り、寺領等は國主の慈悲供養なれば、三寶修敬の布施に異る、故にこれを受くるも不受不施の制法に背かずとなし手形を提出するものあり。これを悲田新受の徒と呼ぶ。此書は不受不施の本義を主張する日講が悲田の徒の著書に對してこれ不受の清流を汚すものとなし、その所論を提擧して一一破斥を加へたるものである。當時日講は日向佐土原に流罪中なれば、特に名を秘して日講門人無名子の名に於て發表してゐる。

破鳥鼠論の名は、その自序にいふ如く、佛藏經の「譬如蝙蝠欲捕鳥鼠時則入穴爲鼠、欲捕鼠時則飛空爲鳥實無有大鳥之用」との文により、新受の徒は鼠にもなり鳥にもなり、不受不施に名をかりて名聞を飾り、敬田受不施の私欲に與し利益の媒とするもの、この鳥鼠不辨の徒を破するによつて名づけたのである。終尾に追加一篇あり五條目を掲ぐ。

寫本(正大、一八四・六八) (望月歡厚) 破奠記 ①(日)Ha-dan-ki. 宗門光顯志 ②二卷 ③存、日蓮宗々學全書第五、萬代龜鏡錄第一〇 ④日講(寛永三一)元祿一一A.D.1626-1698)述 ⑤寛文六(A.D.1666)

⑥身延日覺の受不受法理鈔に十六條を掲げて不受不施義を破したるに答へたるもの。日覺字は義道、故に破奠記には義(宜)道十六條と呼んでゐる。破奠記又は宗門光顯志の異名がある。宗門の制法たる不受不施の義を明にし、析伏の立宗を光顯するの意である。此書、十六條の文を牒し、その下に一一評釋を下してゐる。

破鳥鼠論 ①(日)Ha-chō-so-ron. ②一卷 ③存、日蓮宗學全書第五、信仰叢書之内 ④日講(寛永三一)元祿一一A.D.1656-1698)述

⑤文政の頃妙覺寺日奥によつて創唱せられたる不受不施の法義は、寛永年間池上日樹對身延の抗諍となり、寛文五年に到つて幕府は寺領朱印皆これ布施物なれば布施受領の手形誓書を提出せざるものは、これを沒收し、一舉に不受不施の主張を撲滅せんとした。乃ち不受不施側に輒論興り、寺領等は國主の慈悲供養なれば、三寶修敬の布施に異る、故にこれを受くるも不受不施の制法に背かずとなし手形を提出するものあり。これを悲田新受の徒と呼ぶ。此書は不受不施の本義を主張する日講が悲田の徒の著書に對してこれ不受の清流を汚すものとなし、その所論を提擧して一一破斥を加へたるものである。當時日講は日向佐土原に流罪中なれば、特に名を秘して日講門人無名子の名に於て發表してゐる。

破鳥鼠論の名は、その自序にいふ如く、佛藏經の「譬如蝙蝠欲捕鳥鼠時則入穴爲鼠、欲捕鼠時則飛空爲鳥實無有大鳥之用」との文により、新受の徒は鼠にもなり鳥にもなり、不受不施に名をかりて名聞を飾り、敬田受不施の私欲に與し利益の媒とするもの、この鳥鼠不辨の徒を破するによつて名づけたのである。終尾に追加一篇あり五條目を掲ぐ。

寫本(正大、一八四・六八) (望月歡厚) 破奠記 ①(日)Ha-dan-ki. 宗門光顯志 ②二卷 ③存、日蓮宗々學全書第五、萬代龜鏡錄第一〇 ④日講(寛永三一)元祿一一A.D.1626-1698)述 ⑤寛文六(A.D.1666)

⑥身延日覺の受不受法理鈔に十六條を掲げて不受不施義を破したるに答へたるもの。日覺字は義道、故に破奠記には義(宜)道十六條と呼んでゐる。破奠記又は宗門光顯志の異名がある。宗門の制法たる不受不施の義を明にし、析伏の立宗を光顯するの意である。此書、十六條の文を牒し、その下に一一評釋を下してゐる。

文政四寫 ①(正大、一八四・六七) (望月歡厚) 破答記 ①(日)Ha-to-ki. ②一卷 ③存 ④日耀 ⑤承應元刊 ⑥(正大、一八六・一五)(立大、A二二四九五)

破二妙一義集 ①(日)Ha-ni-myō-ichi-gi-shū. ②一卷 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三A.D.767-822) ④(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目

集卷上 破日蓮義 ①(日)Ha-nichi-tea-gi. ②二卷 ③存、大日本佛教全書第九七 ④圓信述 ⑤永正元(A.D.1504)三月

⑥圓信文龜二年の頃、美濃華王院住持の日蓮義に對する疑難の提出に答へて六十二條の難問を記す、濃州の刺史源政房之を日蓮宗日憲に致して答釋を作らしむ。永正元年四月書成る。政房乃ち再び之に對して圓信の答釋を求む。圓信乃ちこの事を著して答へたるものである。後日澄は、日出台隱記二卷を作つてこの書を破せり。

各條の下に三段を分ち、先づ「不審條目」として圓信の疑難を擧げ、次に「答云」の下に日憲の答釋を出し、後に「重難」の下に政房の命によりて記するところの重難を説けり、六十二條皆この例によれり。

破佛論を辨ず ①(日)Ha-butsu-ron-o-ben-zu. ②一卷 ③存 ④本多日生(一昭和六A.D.1931)著 ⑤大正五刊 ⑥(立大、B〇八・四四) ⑦京都村上書店

破法罪聚鈔 ①(日)Ha-hō-zai-jū-shō. ②二冊 ③存 ④曜惠(天明二)文政五以後A.D.1782-1822)述 ⑤寫本(谷大、宗大・二五〇三)天保二刊(京大、一・二六八・一)

破峰重禪師語錄 ①(日)Ha-hō-jū-zen-jī-go-roku. (支)Po-feng-chung-chian-shih-yū-lu. ②一卷 ③存 ④明破峰普重語、傳慧等編 ⑤康熙二二刊 ⑥(駒大)

破魔正理集 ①(日)Ha-ma-shō-ri-

名所行記 ①(名取書)書所現 ②月年の刊寫 ③(書考參書釋註)書末 ④説解存内 ⑤代年作書 ⑥書著 ⑦佚存 ⑧歿者 ⑨(名書)名題 ⑩號字數

10

shu. 破々邪顯正義 ①一卷 ②存 ③日航
 ④【參考】大日本佛教全書續刊豫定書目
破魔陀羅尼經 ①(日) Ha-ma-da-
 ra-ni-kyō. (支) Po-mo-to-lo-ni-ching. 無
 量門破魔陀羅尼經。無量門破魔經。一
 卷 ②存。大正一九・六八八No. 1014。縮成九、
 二一一・一。北339知、南342知、元339知、
 明北330莫、清330莫、麗337良、天337知、
 指300良、法321良、至590善、明南334得、
 天334 ③功德直、玄暢共譯 ④劉宋大明
 六(A. D. 462) ⑤無量門破魔陀羅尼經の
 下見。

破謬鈔 ①(日) Ha-myō-shō. ②一卷
 ③存 ④行觀述 ⑤日蓮を破斥したるもの。
 ⑥古寫本(谷大、餘甲・三六)

破謬論 ①(日) Ha-myō-ton. ②一卷
 ③存 ④寫本(谷大、宗大・一九七〇)

破文 ①(日) Ha-mon. ②一卷 ③存
 ④高藏 ⑤龍大・一〇三・一七

葉上僧正口決 ①(日) Ha-gami-sō
 -jō-ku-ke-su. ②行受 ③【參考】本朝台
 祖撰述密部書目

葉上流灌頂私記 ①(日) Ha-gami-
 ryū-kwan-jō-shi-ki. ②【參考】本朝台祖
 撰述密部書目

頗多和多普經 ①(日) Ha-ta-wa-ta-
 gi-kyō. (支) Po-ta-ho-to-chi-ching. ②
 一卷 ③失譯 ④【參考】出三藏記第三

ハサヲタト記 ①(日) Ha-sa-ta-ta-
 to-ki. ②眞興(承平四—寛弘元A. D. 93
 4—1004)

③本朝台祖撰述密部書目に云く「又云生
 義、又アサハニ引之云ニ生義」(阿云金剛界
 記小島僧都、ム云生義トハ別本ナルベシ)
 云云。

ハタラ鈔 ①(日) Ha-ta-ra-shō. ②
 大師御坊 ③【參考】本朝台祖撰述密部書
 目

馬鹿權勢拆伏論 ①(日) Ba-ka-ken-
 shi-shaku-boku-ton. ②一卷 ③存 ④英
 巖(嘉永二A. D. 1849—) ⑤寫本(龍大、
 一七九九・一二七)

馬祖語錄 ①(日) Ba-so-go-ton. (支) Ma-tsu-yō-lu. 馬祖道一禪師語錄。大
 寂禪師語錄 ②存。已續二・二三・二古尊宿
 語錄第一 ③唐馬祖道一(景龍三—貞元四
 A. D. 709—788)語 ④日本版(内閣)

馬祖道一禪師語錄 ①(日) Ba-so-
 dō-ichi-zen-jō-go-ton. (支) Ma-tsu-tao
 i-ch'an-shih-yū-lu. 大寂禪師語錄。馬祖
 語錄 ②存。已續二・二三・二古尊宿語錄第
 一 ③唐馬祖道一(景龍三—貞元四 A. D.
 709—788)語

④南嶽大慧禪師懷讓和尚の法嗣として江西
 に大鑑下二世の法幢を掲げ、門下に幾多の
 宗將を輩出せしめ江西佛教の淵源を成じた
 大寂禪師道一和尚の行業と語要とを其の廣
 録中より輯めて、提撕爲人の大概を知らし
 めんとしたものである。法嗣には、潯仰臨
 濟の二宗の祖師を法嗣法孫に持ち、臨濟下
 には更に黃龍楊岐の二派を出さしめた百丈
 清規の著者懷海禪師を首めとし、盤山、麻
 谷、大珠、南泉、大梅、五洩、歸宗、撫官、
 汾洲、鶯湖、三角、魯祖、佛光等の入室嗣

法の得法者一百三十九人、參學數千百に及
 び天下の大叢林を成したものである。
 (大久保堅瑞)

馬祖道一禪師語錄 ①(日) Ba-so-
 dō-ichi-zen-jō-go-ton. 國譯馬祖道一禪師
 語錄 ②存。國譯禪宗叢書第二輯第五

馬祖道一禪師廣錄 ①(日) Ba-so-
 dō-ichi-zen-jō-ko-ton. (支) Ma-tsu-tao
 i-ch'an-shih-kuang-lu. ②一卷 ③存、
 已續二・二四・五四家語錄第一 ④唐馬祖道
 一(景龍三—貞元四A. D. 709—788)語

⑤南嶽大慧懷讓禪師の法嗣となり、江西の
 馬祖と尊稱せられて大いに法幢を建て、各
 々一方の宗主たる入室傳法の法嗣一百三十
 九人を得た大寂道一禪師の語要の大概を輯
 録したもので、始めに馬祖の本貫機縁を収
 め次で提撕の示衆語要を収めたものである。

馬祖は、漢州(四川成都府)の馬氏に生れ、
 本邑の羅漢寺に出家し資州(四川重慶府)圓
 律師に求戒し、開元中に南岳傳法院に坐觀
 し、懷讓禪師に得法し、江西の南康贛山に
 於て學人を接待し、これより江西の馬祖と
 稱せられた。德宗帝貞和四年正月に建昌
 (江西南康府)の石門山に登り洞壑平坦なる
 を見て終焉の地と定め、貞元四年二月四日
 (A. D. 788)壽八十を以て示寂せられた。

後、唐憲宗元和八年(A. D. 813)大寂禪師と
 諡號を賜った。本書には、是の行業と南嶽
 懷讓祖師との磨礪の語の機縁の語要、並に
 西堂智藏、百丈懷海、南泉普願、大珠慧海、

泐潭法會、泐潭惟建、石梁慧藏、麻谷寶微、
 大梅法常、汾州無業、鄧隱峰、龐居士等と
 の商量、示衆語を収めたもので、門下の學
 人が何れも卓拔の尊宿であるから其の語頭
 に學人の參究を待つものがある。示衆に云
 ふ、道は修を用ひず但だ汚染する莫れ、直
 に道を會せんと欲せば平常心は道、平常心
 とは無造作、無是非、無取捨、無斷常、無
 凡無聖であり、此心即佛であると説破して
 居る。
 (大久保堅瑞)

馬頭 ①(日) Ba-tō. ②一卷 ③存、
 大日本佛教全書第三八阿婆抄第四 ④承
 澄(元久二—弘安五A. D. 1205—1282)

馬頭儀軌 ①(日) Ba-tō-gi-ki. (支)
 Ma-tou-i-kuai. 聖賀野乾哩縛大威怒王立
 成大神驗供養念誦儀軌法品、聖國曼德迦威
 王立成大神驗念誦法、馬頭念誦儀軌、馬頭
 觀自在儀軌 ②二卷 ③存、大正二〇・一
 五五No. 1072 A、縮餘二、已續一・三・二
 ④唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)
 譯 ⑤聖賀野乾哩縛大威怒王立成大神驗供
 養念誦儀軌法品の下を見よ。 ⑥天永四寫
 (寶善提院)永久五寫(寶善提院)

馬頭觀音 ①(日) Ba-tō-kwān-on. ②一卷 ③存、大日本佛教全書第四七尊禪
 鈔第三 ④覺禪(康治二—建曆二以後A. D.
 1143—1212—) ⑤延慶三寫 ⑥寶龜院)

馬頭觀音心陀羅尼 ①(日) Ba-tō-
 kwān-on-shin-da-ra-ni. (支) Ma-tou-
 kwān-yin-shin-to-lo-ni. ②一卷 ③存、
 大正二〇・一七〇No. 1072 B

④馬頭觀世音菩薩の心陀羅尼を悉曇文字を

名所行發⑥(名庫書)書部所現⑦ 月年の刊載⑧ (書考參書釋註)書末⑨ 説解存内⑩ 代年作者⑪ 著書⑫ 缺存⑬ 教書⑭ (名書)名題⑮ 號略字號

破、葉、頗、ハ、馬